



H.28年度末停止予定の北谷津清掃工場

## えっ?! 北谷津に再び清掃工場が..

～充分な説明が欲しい清掃工場の今後～

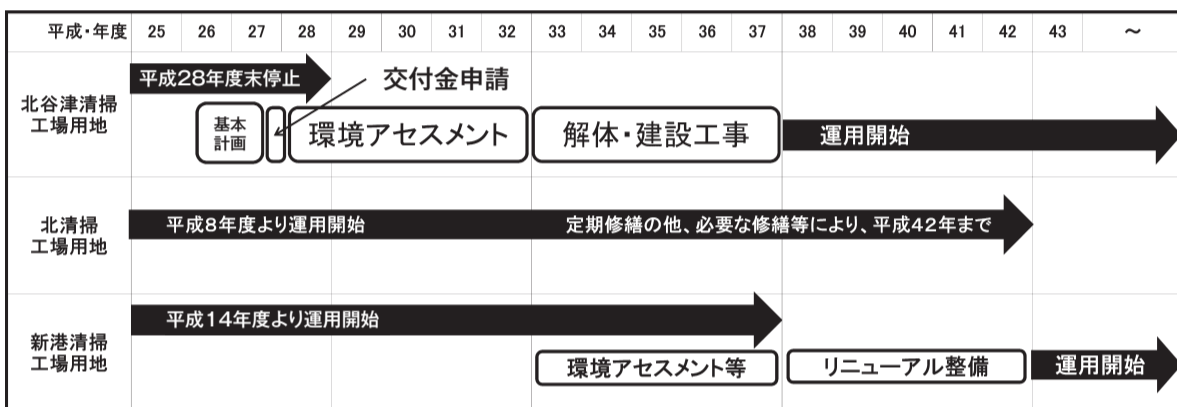
ゴミを減らして3清掃工場体制から2清掃工場体制に変える計画はみなさんも御存じだと思います。つまり老朽化した北谷津清掃工場を廃止し、新港と北の2清掃工場にすることだったと解釈していました。だから若葉区には清掃工場はなくなるのだと...

ところが、一般廃棄物処理施設基本計画作成のための補正予算案を審査する中でわかったことですが、千葉市は12年後の操業をめぐり、再び北谷津に清掃工場を建設する考えを持っていることがわかりました。

新港の清掃工場はゴミで発電できる施設ですが、予想外にメンテナンスとお金がかかることがわかったようです。

新港より北清掃工場の方が古いのですが、そこを長期間もたせて、次期は北谷津との2工場体制にするとのことでした。

北谷津地域の地元自治会は賛成と聞きましたが、多くの市民は初耳です。プールやいきいきプラザなど熱源利用施設の今後のことも含め、充分で丁寧な説明、意見の聴取をするよう要望しました。



## 山田京子の 議会報告

平成26年第3回定例会  
9月8日～10月3日

約28億円の赤字でしょっと一息!

でも気を緩められない財政健全化

平成25年度の千葉市一般会計決算は市税の増収等により27億8400万円の赤字でした。また借金の残高は3カ年連続して前年に比べ100億円以上減りました。現在18.4%である政令市ワーストの実質公債費比率は今後いったん上昇しますが、18%を下回る時期が1年前倒しの平成33年度となったことなど、財政健全化への取り組みが一定程度評価できることから、平成25年度決算を認定と判断しました。ただし、国保会計の累積赤字も課題ですし、市債残高も減らない中、市庁舎の建て替え計画も始まります。税金を確保し借金を減らしていく財政健全化への取り組みは、気を緩めるわけにはいきません。

## 空き地に看板が立ってからは遅い!

紛争を防ぐために 議会、行政、市民ができること



高層マンション、墓地、納骨堂の建設問題。どれも、建てたい事業者と“とんでもない”と思う住民が対立する。千葉市でもこれまで反対住民からの相談や請願が多々あった。大田区では、遺体保管所開設をめぐる紛争が起きた。法律や条例の整備が世の中の変化に追いついていないことが大きな要因だ。

若葉区では小倉台駅近くの葬祭場建設に反対する周辺住民が6月議会に請願を出し、全会一致で可決されたが、建設が止まったわけではない。市は法律の整備が先と言うが、直ぐには無理。事業者が事前に住民との話し合いの場を設ける等の手続きを定める必要がある。

本来なら、常任委員会を中心に紛争を防ぐ条例を作り、意見書も国に出すのが議会のあり方と思うが、今の千葉市議会はそのまでの団結力がなく、市民に申し訳ないと思う。市民ネットも意見書や条例案を出せるだけの人数を増やし力量もつけたい。

一方市も、今後も紛争が予想される課題には、スピード感を持って市独自の条例を作り市民の不安に役立てたい。また市民の側は、自分たちのまちに関心を持ち、どんな建物が建てられるのかを勉強し、地区計画を作って、紛争を未然に防ぐことが必要だ。空き地に建築計画の看板が立ってしまう前に...

## 迅速で厳しいチエック体制を 広々緑豊かな地域が裏目に...

若葉区のほぼ半分は、谷津田や畑など緑豊かでホッとする空間が広がっています。しかし、これがかえって裏目に出て、数々の問題が発生しています。

その1 自称リサイクル業者が、違法に集めた品物を借地に放置していたため、ゴミ置き場のようになり、2度も火事になりました。近隣の方から又、火事が起きないかと不安の声が届きました。

その2 美しい谷津田の隣接斜面に、残土が積み重ねられたのですが、急勾配で適切な処置をしていないため、何度も崩落を繰り返しています。残土埋め立ての許可は県にあります。千葉市も届け出を受ける役割と共

に、直下の道路を安全に通行できるようにする責務があります。事業者の代表者が死亡したとの情報もあり、他の役員に連絡がとれないなど、法に違反していることはわかっていますが、事業者はもとにも責任を取ることから逃げていると思われまます。崩落現場は今も通行止め。田んぼにも土砂が入ったままです。

その3 傾斜のある畑を、平らにして作物をつくる計画での、一時転用許可申請が農業委員会に出されました。すでに工事に入っていますが、くさい匂いのするものを埋め立てていたと市民からの通報がありました。

しかし、市の職員が現地に出向いたのは次の日午後。掘り返してもくさいものは見つからなかったとのこと。直ぐに駆けつけていれば、不

正な行為を発見できたかもしれないのに、大変残念です。

3つのいずれも、事業者が悪いのですが、それを行政が初期に厳しくチェックしきれていないために、不法行為が後を絶たないのです。

また、林地開発に関しては県に許可権があるため、市でできることが限られます。今後は県との連携を密にし、千葉市では不正をできないぞ”という評判がたつような、迅速で厳しいチエック体制を作りたいと要望しました。



小間子町の崩落現場